

【陵水会館】

経済学部の前身である旧彦根高等商業学校の同窓会（陵水会）館として昭和13年11月に建築されたもので、建築家ウィリアム・メレル・ヴォーリス氏（日本名 一柳米来留）の設計によるスペイン風のゴシック様式木造モルタル造りとなっており、構造の巧妙さと風格の高さで、建築界でも著名な建物です。

昭和53年に陵水会から国に寄付されその後昭和58年に大改装が行われましたが、外観はまったく建築当時の原形そのままに洗練された姿を残しています。

平成9年5月文化財保護法の規定に基づく「文化財建造物」に、国立大学では東京大学の安田講堂に次いで2件目の登録となりました。現在も、産業共同研究センター及び地域連携センターが置かれ、本学の産学連携の拠点として機能しています。



【経済学部附属史料館】

主に滋賀県下における歴史資料の散逸を防止し、その保存と学術的活用を図ることにより、経済史、経営史及び社会史等の関連諸学の発展に寄与することを目的としており、学部附属の施設としては全国的にも珍しい博物館施設です。近江商人研究の拠点として機能しています。

校内での授業や研究に利用されるとともに、一般にも公開されており、毎年開催している企画展には、県内外から多くの方が見学に訪れています。



【陵水学習教育支援室】

平成17年4月、学生への学習支援、教員への教育支援、そして学部のFD活動支援を目的として、経済学部の校舎棟3階に「開放型学習スペース」と「学習教育支援室」がオープンしました。講義資料の配付や先輩たちによる新入生への履修相談会の開催等、多数の学生が訪れ、活気に溢れています。



陵水学習教育支援室



TAによる標準試験講座

キャンパス散策（滋賀大学）



SHIGA UNIVERSITY

滋賀大学は滋賀師範学校と彦根高等商業学校を母体として、昭和24年に教育学部と経済学部の2学部の大学として設立されました。長い伝統の上に立って、教育界と経済界に有為な人材を輩出してきました。教員採用率も高く、一流企業への就職率も高いのは、この優れた伝統が今も維持されているためです。

教育学部は学校教育教員養成課程（定員180人）と情報教育・環境教育の二つの課程（同60人）から成っており、100人以上の教員が綿密な教育をしています。経済学部は日本の国立大学としては最大規模で、経済・ファイナンス・企業経営・会計情報・情報管理・社会システムの6学科（定員550人）で、こちらも100人を超える教員が教えています。このように、私立大学には見られない、少人数の密度の高い教育をしています。研究の上でも、全国で初めて経済学研究科グローバル・ファイナンス専攻を設立し、さらに博士後期課程として経済経営リスク専攻を設置しました。



大津キャンパス



彦根キャンパス

本学は東西南北の交通路にあり、歴史、文化のゆたかな近江の地にあります。何よりも、琵琶湖畔の美しい学園環境に恵まれており、学生が青春を過ごすには最高のアメニティが得られます。

【経済学部講堂】

滋賀大学の正門右側にある講堂は、経済学部の前身である旧彦根高等商業学校創立当時の大正13年文部省直轄工事により建築されたものです。

木造スレート葺き（昭和18年頃瓦葺きに葺替え）平屋建（ギャラリー部分中2階建）で附属商業実践教室も備えています。



経済学部講堂越しに国宝彦根城を臨む

大正時代における旧専門学校の講堂の典型的な建物様式として代表的なもので、小屋裏排気塔を屋根上にドーム型とし、塔気孔を6ヶ所設けるなど、現存する学校建築としては数少ない貴重なものとして往時の瀟洒な佇まいを今に見せており、平成13年5月に、国より登録文化財に指定されました。

現在は各種イベントやシンポジウム、クラブ活動等に使用されています。

【経済学部オープンカフェ“ラゲーナ”】

平成14年4月、経済学部生協にオープンした、茶系の色調で落ち着いた雰囲気のカフェです。イタリア語で「水路・お堀」を意味し、滋賀大の周りを流れるお堀をイメージして命名されました。情報交流の場として、学生、教職員に利用されています。コーヒーは香り高く、1杯ずつ挽きたて、淹れたてを提供し、美味しさにこだわっています。



【教育学部オープンカフェ“ピーパ”】

平成17年10月、教育学部生協にオープンしました。

カフェの名前「ピーパ」は、中国語で「琵琶」のことで学生による公募と投票で決まったものです。カフェで使用する食器類は、「信楽くみ作業所」で働く障害者の作品を採用し、カフェの従業員にも障害者を採用するなど、教育学部ならではの配慮がなされています。カフェは、自然採光で店内は明るく、学生や教職員のコミュニケーションの場として人気を集めています。



【大津サテライトプラザ】

平成15年4月、滋賀大学のサテライト第1号として、JR大津駅前平和堂アルプラザ大津5階に開設しました。教育情報の発信基地として、また、学生から社会人まで、生活やビジネスに密着した知識共有スペースとして機能しており、大学広報誌や入試情報等の提供のほか、地域連携、産学連携相談、市民向け講座の開催、大学院授業、教育相談等が実施されています。



【学生自主企画プロジェクト】

平成18年度から、学生の独創性や、意欲的な活動を支援する事業としてスタート、毎年度5～10件の活動に対して1件につき10万～20万円の支援を実施します。

初年度は、学内から計11件の応募があり、教育交流や地域貢献、琵琶湖岸の清掃ボランティアなどの活動計6件を採択しました。19年2月に成果報告会が開催され、学生起業によるビジネスモデルの構築や大学構成員の意識改革につながる事が期待される内容でした。



学生自主企画プロジェクト成果報告会の様子

第2回目となる19年度は、14件の応募から、学習型観光案内システムの構築と普及を通じて彦根市の商店街の活性化を目指したり、障害児教育・福祉研究の国際交流等を目指す活動計8件を採択しました。今後、意欲的な活動が進められ、企画力や行動力を培っていくことが求められています。